

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年12月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2872000779		
法人名	社会福祉法人 明石恵泉福祉会		
事業所名	恵泉グループホーム		
所在地	兵庫県明石市大久保町大窪2813 (電話) 078-938-6988		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成20年12月 4日

【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成12年 3月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 4 人, 非常勤 14 人, 常勤換算12.72	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	43,800 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(375,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	231 円	昼食	609 円
	夕食	525 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護 1	6	要介護 2	6		
要介護 3	4	要介護 4	0		
要介護 5	2	要支援 2	0		
年齢	平均 84 歳	72 歳	最高	95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本クリニック、木戸歯科、平松眼科
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

恵泉グループホームは明石市大久保町にある社会福祉法人明石恵泉福祉会グループの敷地内に位置し平成12年に開設された。第1、第2特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、ケアハウスなど高齢者福祉を網羅する法人事業所として組織体制がしっかりと確立されており、職員研修等も活発に行われている。また、恵泉クリニックが隣接しており、医療面においても24時間対応が可能なおことから安心感が得られている。法人事業所全体の規模が大きく一つの町のようなイメージであるが、グループホーム内はアットホームで穏やかな生活空間が充ちており、職員は質の向上に意欲的に取り組んでいる様子が見られた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の評価結果を受けての改善状況は、グループホームとして独自の理念を作成する取り組みを行った。職員一人ひとりの意見を集約し、話し合い、5項目からなる理念はスタッフが大切にしたいと感じている思いを分かりやすい言葉で表現されている。理念づくりの過程は発見や気づきがあり、学びの機会にもなったと位置付けされており、今後も評価を活かした取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の自己評価の取り組みにはスタッフ全員が参加した。前年の評価で取り組んでいきたい内容を上げ、その項目を意識しながら改善に向けて努力してきた。今後も評価を活用し、スタッフ全員の成長とともにサービス向上に繋げられる事を期待します。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は3か月に1回定期的に開催されている。参加者は民生委員、高齢者団体代表、利用者、家族、職員等13名のメンバーにより構成されている。会議では、前回の運営推進会議で出された質問や課題についての経過報告を行い、今回の検討事項を提案し、活発な意見交換が行われている。毎回、幅広い視点からの意見はホームへの貴重な応援団として受け止めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の意見、苦情等は特に貴重な声であり、事業所にとって大切な宝と捉えている。利用者ごとに担当者を決め、毎月1回ホームでの生活の様子をお知らせするレターを届ける取組みも始め、家族ぐるみの支援体制の確立を積み上げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 明石恵泉福祉会グループとして多彩な行事の案内を地域に呼びかけており、毎回多くの地域の方が訪れている。今回ホーム独自の試みであるが、中学校の社会科授業の一つとして20人の生徒の訪問を受け入れた。利用者も生徒さんも時間が経つのを忘れるくらい楽しいひとときを過ごした。この経験を生かし訪問を広く受け入れる計画を検討している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の法人としての理念に加え、ホーム独自の理念を作っている。理念を「絵に描いた餅」にしないようにするため、職員全員が大切にしたいと感じている思いや意見を出し合って、簡潔で分かりやすい内容に作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をケアの基本として、朝の申し送り時に唱和して、胸にストーンと落ちる工夫もなされ、具体的なケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	これまでの交流をさらに広げる取り組みとして、中学生による見学会を実施した。孫と触れ合っているような入居者の柔和な表情、おばあちゃんと触れ合っている感覚の中学生の喜ぶ顔が印象的で新しい交流の在り方として、今後も積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は、自己評価を日々のケアを振り返る機会として捉え、管理者も含め職員全員で取り組んだ。評価のねらいや活用方法についてさらに理解が深まり、サービスの質の向上に繋がっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	3か月に1回定期開催されている。民生委員、高齢者団体、利用者、家族等が出席し、前回出された質問や検討事項について、その経過報告を行うとともに議題を提起し、率直な意見交流が行われおり、双方向の関係に努めている。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	機会あるごとに働きかけているが、壁が高く、具体的な連携には至っていない。		市町との連携は、地域密着型サービスを充実させていく上でなくてはならない課題です。あきらめず、事業所の考え方や実態をよく知ってもらえる機会を作ることから、地域包括支援センターとの関係づくりを含め取り組んでいくことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の訪問時には必ず声をかけ、利用者の状況等を話し合っている。また、利用者ごとに担当者を決め、毎月手紙でホームでの生活の様子を知らせている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の意見・苦情等はサービスの質を高める上で特に大切なこととして捉え、申し送り時に共有して改善に繋げている。アンケートの結果については内容を受け止め、具体的に活かしていく方法を検討している。		家族等の意見・苦情等について積極的にサービスに反映させるという姿勢が見られるが、記録として整理することで発生要因や弱点等がより鮮明に見え、効果的である。レポート化するような取り組みを期待したい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者、ご家族との信頼関係を大切にするためにも、顔馴染みの関係は大切に考えており、法人内の異動も極力ないような体制をとっている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人としての研修も充実しており、外部研修は伝達研修として実施している。内部研修は月1回実施しており、直近の内部研修は、「虐待について」施設長が講師を務めた。気づきや感じる事が多く、ケアを見つめなおすことに繋げている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日々のサービス向上に役立つ実践的な交流や連携に結び付ける機会は今後の課題であるが、管理者が、広域の同業者との交流や勉強会には積極的に参加し、情報交換を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスの利用については、ご本人とご家族に見学をしてもらい、雰囲気を感じてもらうことを大切にしている。ご家族が切羽詰まった状態にあっても、ゆったりとご本人が安心し、納得するような関係づくりに努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と掃除やおやつ作りなどを一緒に行うことで、職員は利用者から学ぶことも多く、ストレスも感じない程楽しく業務を行っている。テレビのニュースを話題に喜怒哀楽を共有することもあり、一緒に生活している感覚でとけこんでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その人らしい暮らしを支える視点に立ち、声をかけ言葉や表情などから思い・希望・意向の把握を大切にすることを努めている。</p>		<p>利用者の思いや意向等に関心を払った声かけが垣間見られたが、一人ひとりの生活歴やライフスタイルの把握をプラスすることで利用者を総合的に見つめることができる。プライバシーに触れることにもなるが、工夫して情報を得るような取り組みを期待したい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントシートによるアセスメントをしっかりと行い、介護経過、日誌等の記録、モニタリングの過程を経て、利用者本位の介護計画作成に努め、家族にも意見を求めている。</p>		<p>利用者ごとの担当を決め、一人ひとりの状況の把握に留意することを中心に介護計画作成が行われているが、同時にスタッフ全員で話し合う機会を設け、気づきや意見を出し合って、よりきめ細かいケアに対応できる介護計画作成を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>「生活相談日誌」、「夜勤日誌」、カルテ等から心身等に変化がある時、臨機応変に見直し、より利用者本位のケアプラン作成をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医の受診の付き添い等、本人、家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。近隣地域の高齢化率も高くなっており、そのニーズに合わせる機能は今後の課題と捉えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>法人事業所内に24時間対応の在宅医はあるが、ご本人、家族の希望に沿ってこれまで馴染みのかかりつけ医の受診についても臨機応変に対応し、職員が同行する場合もある</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>食事が摂れない状態になった時点で、かかりつけ医の判断を仰ぎ、入院か、もしくは法人内の他施設への入所ができる連携はとれており、家族の気持ちの負担にならないような体制に配慮している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の誇りやプライバシーを大切にすることを全職員に徹底するため、個人情報保護規程やマニュアルを整備して徹底に努めている。特に排泄ケアには声かけの時点から配慮した対応を行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事以外は利用者一人ひとりが自分のペースで生活を楽しんでいる。カラオケ、習字、生け花、絵画、広告紙を使って貼り絵をした作品が居間に展示され、多彩な生活風景が感じ取れる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所法人の方針もあり、隣接の第2特別養護老人ホーム(100床)と合わせ委託業者による食事提供となっている。その中でホームの工夫として、ごはんは炊飯器で炊く、おやつ作りは利用者と楽しみながら手作りとしている。後片付けはそれぞれが力を発揮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に3日と決めているが、毎日希望の場合は自由に入浴している。足腰が弱ってきた場合、ハード面で入浴が無理な時はシャワー浴、もしくは隣接の第2特別養護老人ホームへ特別入浴の申し込みを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯は力に応じて役割を担ってもらっている。お琴を奏でたり、習字の腕をふるったりと好きなことを楽しんでいる。居室が城になって閉じこもっている利用者には試行錯誤しながらねばり強くかわりを積み重ねている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春夏秋冬の季節観を味わう外出支援の計画があり、日常的にはショッピングセンターへの買い物や散歩を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない実践は危険との隣り合わせでもあるが、そこから必要なケアについて気付くこともあり、玄関の施錠は夜間のみしている。各ユニットの出入り口はオートロック機能になっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に2回防火・避難訓練を行っている。訓練の度に職員が冷静に対応することの必要性を痛感している。緊急連絡網、災害時マニュアルも整備され、事業所全体としては人インフルエンザ対策として食の備蓄も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	1日の摂取カロリーは、おやつを含め1,500カロリーに栄養士が献立を立てている。昼食時、みんなが食べ終わるまで箸を持たない利用者に早く食べることを促すこともなく、食事介助も行わず、その方のペースを把握した対応が行われていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者が1日の中で多くの時間を過ごす居間は天井も高く開放感がある。利用者が活けた生け花、絵画、習字、広告紙を使った貼り絵などの作品がセンスよく展示されている。ご飯の炊ける匂いも漂って、ご家庭での生活感を味わう空間となっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせ、使いなれた寝具、家具等や思い出のある写真、仏壇等も持ち込まれ、落ち着ける空間になっている。各居室入口には、ご本人のスマイルいっぱいの顔写真を掲示し、工夫がなされている。		

 は、重点項目。